
もしも、

まきか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしも、

【Nコード】

N6197G

【作者名】

まきか

【あらすじ】

なんとなく生きていた主人公…さやかが、一人の男と出会い・・・

第1話（前書き）

読みにくいかもしれませんが、よろしくお願いします。

第1話

もしもあなたがいなかったら

今頃あたしは

存在していないだろう

もしもあなたに出会ってなかったら

今頃あたしは…

死んでいただろう…

太陽が照りつく夏、

あたしはあなたに出会った。

今考えると、あなたに出会ったのは

偶然という名の必然だったと思っている。

今あなたはどこにいるのか分からない。

今誰の隣で笑ってるのか分からない。

毎日一緒にいるのが当たり前だった頃が懐かしい。

お互い別々の道を歩んでいるあたし達

たとえ一緒にいなかったって

あの夏の恋を

後悔したことはない。

ミンミン：

―7月10日―

セミがうるさい。

ああ…日差しが暑い。

クラクラする…

これだから、夏は嫌いだ。

「いや、ほんとにやばい…」

ドサッ

夏の暑さで倒れてしまったあたし。

（このまま誰にも助けられず、暑いまま死んでいくのかな…）

空気がひんやりしている。

たまに吹く風が気持ちいい…

「…丈夫ですか？大丈夫ですか！？」

うるさいくらい耳に鳴り響く男の声。

その声で気がついたあたし。

目を開けると白い天井が見えた。

「あ…れ？ココどこ？」

倒れたのは公園の噴水の前だったはず…

あきらかにココは公園ではない。

「ああ！やっと起きたー！！！」

あたしのそばで安心してゐる男。

ぱっと見、あたしと同じ年くらいだろうと思った。

「誰？ あんた…」

それがあたしが、あなたに言った最初の言葉だったね。

「ん？ 俺？ 俺は、水野颯太だよ。」

優しい笑顔で水野颯太というらしい男が答えた。

「水野：颯太かあ。あたしはさやかだよ。」

なんとなく自己紹介をしておいた。

「さやかちゃんかあゝ。可愛い名前だね（笑）」

と、ホストみたいな口調で言ってきた。

「さやかでいいよ。あたしは颯太って呼ぶね。」

「おっけー、さやか！よろしくな（笑）」

明るい雰囲気話してきた。

「よろしくね、颯太！」

不思議とあたし達は、すぐに仲良くなった。

「俺がいなかったらさやか死んでたな（笑）命の恩人様だぞ」

と、ふざけて言っていたが

あたしは本当にそうだと思った。

（颯太がいなかったらあたし、噴水前で死んでたんだろうなあー…）
あの、あたしが倒れた日から数週間がたった。

颯太とはメールや電話などをし合い、仲良くやっていた。

メールでお互い恋人がいることは話していた。

颯太には彼女がいたし、
あたしには彼氏がいる。

だからメールでじゃれ合うだけ。

それ以上もそれ以下もないと思っていた。

――8月9日――

まだまだ暑い夏

颯太と出会って1ヶ月がたとうとしていた。

そんなある日、

ブー、ブー、

颯太から1通のメールが会った。

.....

0*／08／09 13..31

受信..颯太

件名…無題

会いたい。

明日の2時に●公園で待ってる。

.....

内容はそれだけだった。

（颯太が会いたい？なんかあったのかなあ…）

―次の日―PM13…47

なるべく早めに来たつもりだったが、颯太はもういた。

「颯太…！どうしたの？」

とりあえず聞いた。

「……」

颯太は黙ったままだ。

しばらく沈黙が続いた頃、ようやくー…

「…別れた。」

と、一言。

「え？別れちゃったの？」

仲がよかったカップルだったからびっくりした。

「んーまあ、もっといい人見つかるよ！（笑）」

はげますしかなかった。

そんなあたしに颯太は、思いもよらないことを言った。

第1話（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

第2話

「俺…もう生きていけねえ…」

弱々しく颯太は言った。

(こんな颯太、見るの初めて…)

「だ、大丈夫だって！」

あたしは慌てて言った。

そんなあたしに颯太は

「…だったら、さやか。俺と付き合ってよ。」

「は！？何言って…」

言いかけたその時

ギュッ

後ろから抱きしめられた。

「俺の事、嫌い？」

と颯太はささやいた。

「嫌いとかの問題じゃなくて！」

あたしは颯太の手を振り払おうとする。

しかし、まったく動かない…

ポツポツと雨が降り出した

「俺、さやかが好きだよ？」

「あたし彼氏いるし!!」

必死に振り払おうとするあたし。

人の感情がよく分からないあたしにも

颯太があたしを元カノの代わりにしようとする事は分かった。

「なんでだよ…なんでみんな俺を捨てていくんだよ!!!!」

颯太はそう言い、

泣き叫んだ。

あたしは何もすることが出来ずに、

ただ雨の中

びしょ濡れになりながら

立っていたー。

ピ。ピ。ピ。ピ。ピ。ピ。ー

目覚まし時計が鳴り響く

「うーん…眠い…」

あたしは今自分の家にいる。

あの後、颯太は

「ごめん」

と一言だけ言い、

消えていった。

第2話（後書き）

次回もよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6197g/>

もしも、

2011年1月8日22時07分発行